

明専会による大学の研究支援事業

選考委員会委員長(明専会副会長) 石橋 一郎(制56)



ここでは、九州工大の研究を直接支援する「大学の研究支援事業」について紹介します。

研究支援事業とは、母校の先生方も含む)の研究を対象に、明専会が研究に自由に使っていただけのお金を直接支援するものです(500万円/件)。

初年度の採択テーマは、昨年7月の明専会報919号でも報告していたように次のテーマでした。

採用テーマ…パンデミックウイルス

に対する診断と薬開発のための応用化学的アプローチ【金額500万円】

提案者…工学研究院物質工学研究系

応用化学部門 竹中繁織教授

今号には、成果報告の記事を掲載していますので、ご覧ください。

2年目の募集内容や選考結果について紹介します。

【募集要旨】

母校(九州工大)を社会貢献や産

業連携のCOE(研究拠点)に導く

ことが期待される研究に対し、経費を支援するものです。工業化など実用性が見込まれ、波及効果が大きく広がると思われる研究や、その可能性が期待される萌芽的研究などを広く募集します(母校の研究が益々発展することを目標としています)。

【対象】九州工業大学職員

【規模】

総額…5,000万円(1件あたり

500万円程度、年2件以内)期間1年間

【実施期間】10年間

【公募】

昨年10月より学内掲示で告示を行い、本年1月応募を行いました。提出書類内容としては、研究テーマ名、研究の目的及び内容や研究計画の他、研究の特徴として①獨創性・新規性、②実現性、③波及効果などについてを記載していただきました。

【応募件数と審査結果】

12件の応募をいただきました。

審査員としては大学を除く副会長と常務理事、及び専門家(技術士会の方々)に入っていました。

審査は選考委員会のもとに、一次選考(書類選考)二次選考(プレゼン審査)を行った結果、左記の2件

のテーマを採択しました。

■採用テーマ…高性能かつ安定性に優れた次世代個体ナトリウムイオン電池の開発【金額500万円】

提案者…生命体工学研究科・生体機能応用工学専攻 馬廷麗教授

■採用テーマ…データセントリックアプローチによるデータセットとモデルの双最適化とタスク特化型DNNの完全自動構築【金額500万円】

提案者…生命体工学研究科・人間知能システム工学専攻 田向権教授

3年目も前述と同様の日程で公募。審査を進めてまいります。今後10年間、継続して優れたテーマを採択していきたいと思っておりますので、大学の先生方には積極的にご提案していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

比較的自由に使える資金を提供できることで、研究テーマが実り多きものになることを期待しています。

(北九州市立大学 知的財産担当

特任教授)

(元(株)安川電機)

明専会では母校100周年記念の10年間事業として、創造学習支援、グローバル人材育成支援、明専会における人材育成支援、を行ってきました。これらはそれぞれ顕著な成果を得ており、順次終了していきます。

明専会の次なる10年の新しい事業として、4つの事業(①大学の研究支援事業、②学生部活動応援事業、③国際ネットワーク強化事業、④明トラを活用した同窓の絆強化事業)を行うこととなり、2022年から実行段階に入っております。ちなみにこれらの四事業は「明専会110周年記念事業」の中にも組み込まれて推進することになります。